Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・リポート

Vol.2

国際基督教大学高等学校図書館

学校全体で活用される図書館を目指し アイデアを出し合いながら進め、今の形に

国際基督教大学高等学校図書館

新病院、新校舎への移転のタイミングで 連携して情報館を導入

医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター
千葉中央看護専門学校

株式会社ブレインテック
since 1983

学校全体で活用される図書館を目指し アイデアを出し合いながら進め、今の形に

国際基督教大学高等学校図書館

東京都小金井市にある国際基督教大学高等学校は、国際基督教大学の広い敷地の一角に位置しており、周りを木々に囲まれた落ち着いた環境です。白と木目のコントラストが美しい、明るい図書館におじゃまして、お話をうかがいました。

国際基督教大学高等学校図書館
〒184-8503
東京都小金井市東町1-1-1
TEL：0422-33-3401
http://www.icu-h.ed.jp/index.html

学校自体が多文化社会

――まずは貴校の特徴について教えてください。

本校は東京都三鷹市と小金井市にまたがる敷地内に1978年に創立されました。帰国生徒の受入校として創立され、現在生徒の3分の2は帰国生が占めています。生徒の在留国は100か国以上にわたり、学校自体が多文化社会といえます。

また2014年に始まった文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」の指定校でもあります。この事業を通して当校では、帰国生と国内生の相互理解教育に基づくグローバルリーダー育成を目指しています。その他の特徴として、生徒が文章を書くことを支援する「ライティングセンター」を常設していることが挙げられます。高校では珍しい取り組みです。大学生・大学院生のチューターと対話しながら、生徒が文章を一人で仕上げる力を身につけることを目的としています。

――図書館入口の新着コーナーの資料数がとても多く、洋書も目につきますね。

はい。1か月におよそ150冊～200冊ほどを受け入れています。これらの資料は図書館入口に設けた新着コーナーに配架され、その後書架へ並べられます。現在34,000冊ほどの資料を所蔵していますが、そのうち4,300冊ほどが洋書です。基本的に、和書・洋書区別せずに配架しています。この他、図書館外にも外国語科にリーダー本が別途配架されています。書庫はなく、ほとんどすべての資料が開架で手に取って利用できます。

――授業時間に自習している生徒さんだけではなく、休憩時間にはたくさんの生徒さんが訪れていますね。

自習時間に来館する生徒は、キャレルデスクや空いている机などを自由に使用しています。有料データベースに接続できる端末もありますし、館内ではノートパソコンやWi-Fi機器も設置されておりますので、レポートなどを仕上げることもできます。

図書館の中には、2カ所、授業で使用できるエリアがあります。プロジェクタやホワイトボードを使用して、英語や社会、国語、家庭科など様々な授業が行われています。

書架は白と明るい木目の棚で、生徒の目にも「図書館は明るくてきれい」と映っているようです。

図書館は調理実習室や音楽室など特別教室が並んでいるフロアの奥に位置しているのですが、休み時間の来館者も多いですね。

――毎月の受入冊数が多く、驚きました。季節ごとの展示コーナーや、「司書のおすすめコーナー」棚にあるPOPなど、図書館スタッフの方たちの努力も感じられます。

展示は季節や行事に合わせて毎回2つ程度のテーマで選定しています。司書のおすすめコーナーは、司書の書いたコメントを貼りだしています。展示されている資料はやはり手にされやすく、新着などもよく借りられます。棚や壁には、生徒が作ったPOPも飾ってあります。生徒には書架整理やビブリオバトルの企画なども行ってもらっています。

また、放課後など、図書館で講演会やコンサートなどを開くこともあります。図書館側で企画したものもありますが、他の部署の企画に場所を提供するものもあります。

学校全体で活用される図書館を目指して

――書架に並んでいる資料も新しいものや手に取りたくなるものが多いですね。授業やイベントでも利用されているなど、学校側からも期待されていますね。とても恵まれた環境に思えます。

じつは今のように施設が充実したのはここ数年なのです。6年ほど前までは、図書館は教員1人が兼務で切り盛りしていました。当時情報館はすでに導入していたのですが、資料の入力が不完全で、貸出もシステムでは行えていませんでした。

図書館の有効活用に関心をもつ教員が声をあげ、2011年から、学校全体で図書館を活用する方法を検討することになりました。そして教員と司書数人で図書館を運営することになりました。

まずは遡及入力を行ってデータの整備を行い、検索ができるようにすることを目指しました。2013年にようやく、情報館を使用して貸出が行えるようになりました。その後、書架の入れ替えをし、蔵書点検を行いました。

図書館担当のスタッフ数名をまとめる委員長は交代制にしています。授業も受け持っているのですが、授業数は抑えめにし、図書館の業務を司書と行えるように配慮してもらっています。

――ここまで来るのは大変だったのではないでしょうか。

学校全体で活用される図書館を目指していたので、こうなっているといいな、というアイデアをみんなで出し合いながら進め、今の形になりました。以前の状態を知っている生徒や職員は、図書館が良くなってきたと喜んでくれます。

書架の入れ替えを行う前に除籍を大がかりに行ったので、比較的新しい資料が並んでいます。定期的に資料を入れ替えて書架をリフレッシュすることも必要と考えていますので、除籍対象の選定などには気を遣いますね。

――情報館をお使いいただいていかがでしょうか。

2011年にスタッフが入れ替わったので、その時からカスタマサポート窓口をよく利用しています。わからないことなどていねいに教えていただけるので感謝しています。

製品も、項目表示などがカスタマイズできるということをサポートの方に教えていただき活用しています。最初に表示される項目が充実していると、使う側はカスタマイズできることに気づいていなくても使えるので、はじめて使う人も迷わずに済むのではないでしょうか。

――貴重なご意見をありがとうございます。

システム構成	基本システム1台、館内用OPAC2台、セルフ貸出1台（ワークグループ）、OPACサービス（基本版）（公開制限）
蔵書数	図書約3万4千冊、雑誌46タイトル（各号約2千冊）
導入年	1999年

データは2017年10月現在のものです

新病院、新校舎への移転のタイミングで連携して情報館を導入

医療法人社団誠馨会　千葉メディカルセンター
千葉中央看護専門学校

千葉市内にある千葉メディカルセンターと千葉中央看護専門学校は、それぞれの図書室で「情報館」と蔵書検索システム「OPAC サービス」を導入いただき、2つの「OPAC サービス」を「OPAC 横断検索」で結んであります。これにより双方の蔵書を一度に検索できるようになっています。

最初に、千葉メディカルセンター図書室を訪問しました。

移転で一新、1977 年開室の病院図書室

――新しくてとてもきれいな図書室ですね。

千葉メディカルセンターは 2014 年 12 月に現在の新病院に移転しました。これに合わせて図書室も旧病院より 2 週間ほどかけて引っ越ししました。

新しい図書室は、24 時間 365 日利用可能です。入口脇に事務スペースとカウンターが設置されています。室内中央に 8 人掛けのテーブルがあり、壁側にはキャレルデスクとインターネット接続可能なパソコンが設置されています。パソコンからは電子ジャーナルやデータベースに接続可能です。

書架は雑誌架と製本雑誌や専門書・一般書などを配架した移動書架で構成されています。

以前の図書室よりも面積が狭くなりましたが、閲覧スペースを削らないよう、移転時に古い製本雑誌などをたくさん廃棄しました。

――カウンターの上にはセルフ貸出システムが設置されていますね。

はい。利用者自身で貸出処理を行っていますが、返却は行わせずに貸出のみに限定しています。返却の際には、返却ボックスへ入れていただき、私たちが処理を行っています。この返却ボックスは病院のベッドの横に置くキャビネットを改造して自分たちで作ったものです。引き出しのところから本を入れると、本が滑ってキャビネットの下部のボックス部分にたまるようになっていて、鍵もついています。

手に取った資料が貸出できるものなのか、できないものなのか、図書ラベルの色で区別しています。通常の資料は紺色の図書ラベルを使用していますが、貸出禁止資料は「禁帯出」シールの代わりに赤色の図書ラベルを貼っています。また、雑誌は和雑誌と洋雑誌を分けずに配架しています。和洋別にすると、洋雑誌があまり利用されなくなってしまうからです。単行書は分類記号順、雑誌や製本雑誌は、ローマ字表記にしたタイトルをアルファベット順に配架しています。

――この図書室の沿革について教えてください。

前身である川崎製鉄健康保険組合千葉病院内に、1977 年に図書室が開室しました。千葉県内の病院図書室としては、千葉県がんセンターに継いで 2 番目の設立です。開室してから現在までの間には、病院の経営にも変遷がありました。開室当初は健康保険組合が母体の川崎製鉄健康保険組合千葉病院でしたが、2003 年に JFE 健康保険組合川鉄千葉病院となりました。2011 年には医療法人社団誠馨会へと母体が移って、現在の千葉メディカルセンターとなりました。このときに、経営方針が大きく変わり、図書室の予算もかなり削減されてしまいました。しかし、図書室を必要としている利用者がいること、診療科が増えたこと、そして、しっかりと利用されているということが認められて、最近ではずいぶん回復してきています。

専門学校図書館

病院図書室の Web サイトは作成当初から外部公開していました。病院図書室は少人数で運営しているところが多いので、ネットワークを築くことがとても大切です。それに、なによりも利用者である病院のスタッフにとっても Web サイトで情報公開がされていたほうが便利ですので、現在も継続して公開しています。

新病院では 1 階に「患者図書コーナー」を設置し、こちらも病院図書室担当者が管理しています。

患者図書コーナー

続いて、千葉中央看護専門学校を訪れました。専門学校は病院の隣にあります。

校舎 1 階の図書室とラウンジは、学生たちの学びの場・憩いの場

――図書室は、校舎の1階出入口近くという、動線が良い場所にありますね。

校舎は 2014 年 8 月竣工、2015 年の 1 月から使用しています。1 階が図書室と講堂、2 階が教員室、3 階が教室、4 階が実習室になっています。実習室は、医療の現場に近い充実した環境を提供し、これからの在宅看護の時代へ向けて地域完結型に必要な設備を整えました。

校舎の入口からまっすぐ進んだところより図書室へ入ることができます。また、入口の左手脇から広がっている広いラウンジの先にカウンターがあり、こちら側からも図書室へ入ることができます。どちらにも扉がなく、オープンな場所になっています。地域の人へ向けて図書室を開放していくことも視野に入れ、アクセスのしやすい 1 階に設置されました。

――図書室と隣接しているラウンジは、とても明るくて開放的な場所ですね。

学校の入口から近いこのエリアは、閲覧室を兼ねた図書ラウンジになっています。入口に近いところは、外を眺めることができるカウンターテーブルやソファを置いたリラックスできる場所になっています。

図書室に近い場所には、4 人掛けや 8 人掛けのテーブルがあり、ラーニングコモンズのような役割を持っていて、グループワークなどにもよく使われています。奥には、集中できるキャレルデスクもあります。ラウンジはとても広くて明るく、校舎の 1 階にあるということもあって、校舎が閉まる時間までこの場所で過ごす学生も多いです。

――新しい図書室になって学生の反応はいかがですか？

新しくなって、学生の利用が増えました。明るく開放的なスペースのラウンジと図書室では、勉強や調べ物をするだけでなく、集まってディスカッションができます。ソファ側ではゆったりとお茶を飲むことが可能で、学生たちの学びの場・憩いの場として利用されています。

――学生にとっても利用しやすい場所になったのですね。運営するスタッフの側としてはいかがですか？

医療法人社団誠馨会
千葉メディカルセンター
〒260-0842
千葉県千葉市中央区南町1-7-1
TEL：043-261-5111
http://www.seikeikai-cmc.jp/
http://librarycmc.web.fc2.com/

医療法人社団誠馨会
千葉中央看護専門学校
〒260-0842
千葉県千葉市中央区南町1-8-1
TEL：043-268-1861
http://www.cckango-seikeikai.jp/

図書室の担当者は司書１名（週２日半日）、教員２名、学生の図書委員（各学年８名）です。教員は授業と図書室の仕事の両方を担当しています。２つの仕事をこなすのは大変ですが、良いこともあります。授業を担当していることで、学生がどんな資料を必要として図書室へやってくるのかがわかります。学生のニーズを図書室の運営にすぐに反映できるということです。また、図書室にどんな資料があるのかを理解しているので、授業の中で資料を紹介する際にも、より詳しく伝えることができるようになりました。そういった点においても、学生にとって図書室が身近になったと思います。

――カウンターにセルフ貸出システムと手書きのイラストがそえられた手順書が設置されていますね。

利用者自身で貸出や返却の手続きを行っています。操作に迷わないように、手順書も作成しました。困ったときは、クラスの図書委員や教員まで相談してもらうようにしています。返却した資料は、書架へ戻さず返却棚へ置くことになっています。返却された資料は、図書委員が書架へ戻す作業をしています。

学生の図書委員は、月に一回図書委員会を開催し、日々の活動報告や学生の利用を促進させる企画を話し合っています。書架がいつも美しく整えられているのは学生の力です。

同じ医療法人でも、病院図書室と専門学校図書室が連携して図書館システムを導入するというケースは珍しいように思います。導入に至るまでのお話をお聞きしました。

図書館システム導入の経緯

――情報館導入前のそれぞれの図書室システムはどのような状況だったのでしょうか？

千葉メディカルセンター（以下病院）図書室には、もともと図書館システムがありました。一方、千葉中央看護専門学校（以下専門学校）図書室では簡易なシステムでの運用でした。そのため、図書室のサービスを拡充し、もっと使いやすくして欲しい、という専門学校の先生方からの強い声がありました。

――専門学校図書室の利用者の要望がきっかけだったということですね。

そうですね。また、当時、専門学校図書室に勤務していた司書の方の影響も大きかったです。その方は、長年医学系の大学図書館に勤められた経験をお持ちでした。その方と、専門学校の「看護管理情報学」授業を担当していた病院図書室の担当者とで、システムを導入しようと相談をしていました。導入検討の際には、学校側も現場の司書の意見を尊重して進めてくれました。そういう流れを経て、新校舎完成のタイミングで情報館を導入することができました。

横断検索を導入したことで どちらの資料にもアクセス可能に

――病院図書室の長年にわたる取り組みと利用者からの声が認められて導入いただけたのですね。病院図書室と専門学校図書室が連携をすることになったのはなぜでしょうか？

専門学校の３年生は病院での実習を行うため、その期間中は病院図書室を利用できるようにしました。また卒業後に病院に勤める学生は、専門学校図書室から病院図書室の利用者に変わることになります。これらのことから、図書室が連携していてどちらでも同じ感覚で使うことができれば、利用者にとってもメリットになると考えたからです。

図書室としての管理は、病院と専門学校それぞれで行っていますが、横断検索を導入したことで、必要に応じてどちらの資料にもアクセスすることが可能になりました。病院と専門学校の両図書室を利用する学生にとっては、使いやすくなったと思います。実際、横断検索は実習期間にある３年生の利用が多いです。

――新しい建物からは想像できなかった図書室の長い歴史と数々のエピソードをお話しいただき、ありがとうございました。

医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター

システム構成	基本システム１台、セルフ貸出１台（ワークグループ）、OPAC サービス（プレミアム版）（外部公開）、CAT1 台、ILL1 台、横断検索
蔵書数	図書約6千冊、雑誌約400タイトル
導入年	2014年

医療法人社団誠馨会 千葉中央看護専門学校

システム構成	基本システム１台、セルフ貸出１台（ワークグループ）、OPAC サービス（プレミアム版）（外部公開）、横断検索
蔵書数	図書約１万２千冊、雑誌約 60 タイトル、映像資料約 400 件
導入年	2014年

データは2017年10月現在のものです

図書管理システム

情報館 ver.8

中小規模の図書館に最適な ベストセラー図書館システム

導入してからも、二人三脚で。

✔ メーカーの直接サポートだから迅速対応

開発元で、図書館システムの専門メーカーである（株）ブレインテックが直接サポートサービスを行うので、対応が迅速。
お問い合わせやトラブル発生連絡受付後の初動対応の迅速さは、多くのユーザー様からご評価いただいています。

✔ シンプルで安定したシステム

全国の中・小規模図書館で選ばれている「情報館」は、安定稼働にも定評があります。さらに、専用のバックアップツールが無くても簡単にデータのバックアップができ、万が一の復旧も容易で迅速です。

✔ データのインポート・エクスポートが自在

システムで管理しているほとんどすべてのデータ（資料データ、利用者データ、各種マスタデータ等）がアプリケーション上で自由にテキスト形式でインポート・エクスポートできます。
また、統計・帳票データのエクスポートも可能です。

✔ 時代に合わせたバージョンアップ

図書館システムの導入は、ゴールではなくスタートです。5年後、10年後も安心して快適にご利用いただけるように、新OSへの対応やユーザー様からの要望を取り入れたバージョンアップを定期的にご提供しています。

OPAC公開を手軽に、簡単に

✔ 選べるOPAC

情報館のOPACは、サーバー設置型とクラウド型のどちらでもお客様に合ったものをお選びいただけます。

✔ 小規模図書館でも安心

クラウド型なら、サーバー不要。
システム担当者が常駐していない小規模図書館様でも、安心してOPAC公開が可能です。

OPAC と合わせて使いたい

スマホ・タブレットを活用した情報ナビゲーションサービス

カーリル™タッチ！（大学版）

「カーリルタッチ（大学版）」は、キャンパス内の各所に設置したタッチタグ（キーワードの書かれたICタグ付プレート）にスマートフォンでタッチするだけで、関連する図書館の資料、調べ方案内などにダイレクトにアクセスできる新しいサービスです。
「情報館」のOPACとの連携も可能。
御見積・トライアル随時受付中。

対応済み連携データベース

- ブレインテック製OPAC
- CiNii Books／CiNii Articles
- Google Books
- 雑誌記事索引（NDL）
- レファレンス協同データベース（NDL）
- リサーチ・ナビ（NDL）[調べ方案内]
- ジャパンナレッジ[辞書・辞典]
- Wikipedia[キーワード解説]

Jcross

図書館と図書館に
かかわる人たちのサイト

http://www.jcross.com/

コレクションコーナー
「しおり」「ブックカバー」
「ライブラリー・ナビ」
「図書館便り」etc. 募集中！

●なかの人たち

図書館員インタビュー

●ウパっちのお仕事見学

図書館関連企業取材記

●専門図書館見学記

●コレクション

図書館のアイテム紹介

- 図書館便り
- 図書館のしおり
- 図書館のブックカバー
- ライブラリー・ナビ
- 図書館のテーマ展示写真

etc.

図書館システムにご興味のある方は弊社ショールームにお越しください

～ 情報館オープンデーのご案内 ～

毎月１回、「情報館」や「カーリルタッチ」などの最新の図書館システムの体験をすることができる展示会形式のイベントを開催しています
https://braintech.co.jp/event/openday

ブレインテック・ライブラリー・リポート　Vol.2

発行日／ 2017年11月１日
発行元／株式会社ブレインテック
〒141-0022 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル 3F
TEL.03-3449-7261　https://braintech.co.jp/

本誌に関するお問い合わせは（株）ブレインテック 広報グループ（TEL 03-3449-7261 ／ E-mail publicity@braintech.co.jp）まで